

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900634		
法人名	株式会社アイミ		
事業所名	グループホーム ソブエピア (桜)		
所在地	稲沢市祖父江町祖父江宮西58-4		
自己評価作成日	平成26年12月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉相互研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が多く自然が満喫できる場所にあり、平屋造りのゆったりとした空間で生活できる環境にある。「家庭的な雰囲気の中で笑いと楽しみのある生活をします。いつも私たちがそばにいます。できることをふやしましょう。」という理念をこころにひとりひとりの希望に応じた生活ができるよう日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士が協力し合いチームワークの良い事業所である。利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しんで過ごすことができ、今の身体的状態を落とさない、できることをなるべく増やしていくことを目標に掲げ取り組んでいる。個別支援にも力をいれ、寺社、買い物や喫茶に出かけるなど具体的な要望が上がれば、他の利用者にも声をかけるなどして、積極的に支援している。利用者皆が等しく楽しめるよう、言葉に出すことができない利用者の要望も日々の支援を通し汲み上げ、行ってみたい所、食べたい物、やってみたいことを見つけ支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に管理者と職員で理念を唱和している。施設内の見やすいところに理念を掲示し「家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせる」ホーム作りに取り組んでいる。	「家庭的な雰囲気の中で」笑いと楽しみのある生活を見守り、利用者のできることを増やすことを理念に掲げ、毎朝唱和して、月一の職員会議で再確認しながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が無く地域の方々との繋がりがなかなか築けず、近所の喫茶店やボランティアの方の訪問くらいでしたが、年に2回保育園との交流を継続している。定期的な推進会を通して町内の方と顔なじみになっている。	町内会に加入、回覧板で地区の情報を得たり、地域に事業所の行事案内をするなど、周知してもらうよう努めている。保育園児や落語、絵手紙といったボランティアの訪問も多く、事業所の夏祭りには多数のボランティアが集まり手伝ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献としての取り組みとして運営推進会を通じて困りごとや相談については気軽に声を掛けていただいたり、訪問してもらうよう呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の見学・説明を行っており、理解や支援のきっかけにはなっている。施設での取り組みを説明し意見交換の場も設けている。出席できない職員へは会議録の内容を確認してもらっている。	開設以来、定期的な開催ができていなかった運営推進会議を今年度は、2ヶ月ごとに開催している。市の担当者、民生委員、家族の参加を得ている。事業所の行事や、介護保険の説明など、会を通し報告や質疑応答の場としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のなかには生活保護の方や措置入所の方がみえる為、市との連携は欠かせない状況である。必要に応じて市の担当者に相談・助言をいただいている。運営推進会議へは毎回出席していただいている。	運営推進会議に担当者が出席している。また、利用者の受入や、相談で話し合う機会もあり、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、朝の2時間のみ安全上の問題で開門できないようにしている。身体拘束においては職員全員が認識しており行わないようケアを実践している。	身体拘束について、職員は周知しており、さらに気がついた点があれば都度話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての法的な勉強は行っていないが、日頃からそのような行為に関しての話し合いを行っており、防止に努めている。身体的な虐待以外に言葉遣いや誤解を与えてしまうような行動がないようお互い注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、学ぶ機会が無く今後必要性を感じている為、講習に参加して知識を得ることが大切である。ほとんどの職員は制度については理解や知識がほとんど無い状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には十分な説明をし納得され入居されている。入所後に起こりうるリスクや重度化、看取りの方針については説明をし、納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは家族会や面会時に常に問いかけ気軽に話せる雰囲気作り心がけている。玄関に意見箱を設置しているが今のところ直接対話にて解決している。	利用者家族はよく事業所を訪問しており、居室担当や管理者が話す時間をとって要望や意見を聞いている。意見箱設置はしてあるが、そちらへの投函はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度も個別面談を行い、意見や要望、提案を気軽に話されている。それを業務に反映できるように努めている。	個別面談もあるが、日々職員は管理者に運営に関する意見や、ケアサービスやレクリエーションの提案を行っている。出来ることはすぐ支援に取り込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤においては土日勤務時に時給UPしている。また、勤務状況においても各スタッフの要望や希望をくみ取り勤務してもらっているが、職員の満足度ややりがいをもちにくく勤務されてみえる方が多数である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り研修に参加してもらっており、参加後はカンファレンス等で報告してもらい職員の技術や知識の向上に努めている。また、掲示板に様々な研修のお知らせを貼り参加するきっかけ作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、2月に交流の機会があり、数箇所の事業所をまわり意見交換を行った。今後も交流の機会があれば積極的に参加できるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談を行い、会話の中からニーズや要望を把握し理解できるよう心がけ安心感を持っていただけるよう柔軟に対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人がグループホームで生活するに当たり、不安なく暮らせるよう話をよく聴き協力し合いながら御本人の支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人を取り巻く様々な環境やおかれている状況を考慮し、他のサービスや事業所の提案も行っている。ご本人主体のサービスを念頭に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという雰囲気が実感できるような心がけており、できることや得意なこと、好きなことにすすんで行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会されている家族とは密にできているが、これない家族へは、電話や毎月のおたよりにて生活状況などを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーへの買物や喫茶店、美容院、地元の施設へは利用者を誘い知人や友人との接点を持てるよう配慮している。施設自体はオープンにし、来訪者歓迎の姿勢をとっている。	入居前に通っていたデイサービスの友人などの訪問もある。自分の家へ帰りたい、とか寺社や墓に詣でたいという要望にもできる限り個別に対応している。電話や絵手紙の取り次ぎもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い支えあいながら生活できるよう職員が間に入ったり、助言・空気をかえたりして見守りを行っている。スタッフの重要な役割のひとつとして常に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や事業所に移る場合は、ご本人の細かな情報まで提供し、利用者が安心して新天地で生活出来るようスムーズな連携にこころがけています。また、施設訪問の際には面会して交流の継続を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動の中から本人の思いや希望を把握するよう心がけ意向に添えるよう努め実践している。カンファレンスにおいても常に要望・希望の変更があれば随時話し合い、対応している。	日々の関わりの中で把握に努めている。その人の表情や言葉などから思いを汲み取り意向に沿えるように努めている。家族からの意見も参考にして支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族と面談を行い、そこから得た情報を「暮らしのシート」におとし込み、職員間で情報の共有を行っている。入所後も引き続き情報収集に心がけ記録に残し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、一人ひとりの状態、状況の把握に努めている。その為、その日の体調や気分によってケアの内容も変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回カンファレンスを行い、たえず状態変化があるのでその都度話し合い、現状に沿ったケアの提供が実践できるよう努めている。その時出たサービス内容について介護計画に反映させている。	日頃から、より良く暮らすための課題や問題点を拾い上げ、月1回のカンファレンスで全職員が意見を出し合い、介護計画に反映をさせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランの記載内容を把握しながら実践し、記録を行っている。そこで得た情報を基に		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内におけるケアサービスだけでなく各利用者における生活環境や心身機能の状態に応じて柔軟に対応している。お墓参りであったり、毎月の命日にお寺さまにお経をあげに来てもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアの訪問があり、歌謡ショー・文化琴・手品・落語・絵手紙や夏には盆踊りのボランティアの方も来られてみえる。施設西側には、地域の方に畑をお貸しし、新鮮な野菜が季節ごとに収穫されいただけるようになりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に行かれる方もいれば協力病院の稲沢厚生病院にかかられる方もいる。受診に関しては、通院介助や主治医との連携を密に行い、急変時迅速に対応できている。	今までのかかりつけ医や希望病院への受診も行っている。通院介助や申し送りで家族との情報交換も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍している為、日頃からの状態変化や異常に気を配り、早期に相談、対応することができ介護職員も利用者も安心して暮らすことができている。受診のタイミングもスムーズにできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者及び看護師が迅速に対応し、医療機関、家族と情報交換し連携できるよう努めている。退院後のケアがスムーズに行えるよう、医療機関との連絡は密にし、面会も週1～2回行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴うアンケートを基に事業所としてできる限りの支援や対応について理解していただいている。しかし、家族の希望も多様であり、日々変化してくる為、その都度話し合いで決めている。	入所時に「ターミナルケア」は行わないと一応説明はしているが、家族からの強い要望があれば対応する用意は出来ている。グループ内の事業所とも連携を取って支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは見やすいところに貼ってあるが、管理者・看護師に任せているところがほとんどである。実際起こった場合に対応できるか不安を抱いている職員が多い為、定期的に講習を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者が、毎年計画を立てて年2回3月、9月に昼間と夜間想定避難訓練及び救命措置や消火訓練等の講習を消防署の協力で実施している。今年度実施済みである。	消防署の協力を得て、年2回の夜間や火事の場面を想定した避難訓練及び消火訓練を実施している。運営推進会議で備蓄の食品の試食も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケアの中で、排泄・入浴時のプライバシー保護には十分注意して対応している。また、人格を尊重した声かけにも職員一人ひとり注意しあい確認しあっている。施設内の掲示してある写真も家族に了承を得ている。	日々のケアの中で、本人の気持ちを考えて、さりげないケアサービスに努めている。一人ひとりの人格を尊重した声かけを全職員が実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話からご本人の要望を希望、思いをくみ取りできるだけ叶えられるよう支援している。意思表示が困難な方でも表情や気持ちをよみとる努力をし満足感を持っていただけよう対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別プランを念頭に置きケアを実践しているが、状況に応じたサービスの提供も必要な為柔軟に対応している。御本人のペースに合わせた支援ができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、その日着る洋服を本人と話し合い決めている。男女問わず散髪・髭剃りには気を配り清潔感を大切にしている。2ヶ月に1度出張美容を利用したり、地元の美容院へお連れしている。毛染めの要望があれば職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時のメニュー書き、消毒、おしぼり準備、テーブル拭きなど利用者の方に役割を決めておこなっている。おやつや準備や野菜の皮むき食器の洗いなどもできる範囲でおこなって頂いている。	食事のメニューは利用者の意見を聴き入れ、看護師と職員で作成をしている。利用者と共に買い物に出かけたり、出来る範囲で食事の準備の手伝いもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状態によって食事形態を変更しており、普通食・刻み食・ミキサー食と嚥下状態により変更している。食事摂取量により毎月の体重測定も行い体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、就寝時に義歯を洗浄剤を使用して清潔を保持している。基本的に口腔内の清掃はご本人に行っていたが職員の介助にて行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者の方は排泄パターンが違う為、全職員はそのことについて把握している。オムツ使用の方も尿意便意のない方もできるだけトイレでの排泄を行っている。使用している下着やオムツについては常時検討しつつリハビリパンツから布パンツへ変更した方もいる。	トイレでの排泄を心掛け、一人ひとりの排泄パターンを職員が把握しチェック表を元に誘導をしている。リハビリパンツから布パンツに変更した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用にて便秘を解消している方もいるがなるべく自然排便できるように乳製品や繊維の多い野菜、運動を取り入れ薬に頼らない取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回一日おきに入浴しているが、毎日希望される方は要望にこたえている。時間帯も希望になるべく浴えるよう配慮している。	一人ひとりの希望を聞き入れ対応をしている。変わり湯や毎日の入浴にも対応している。拒否のある人には無理強いせず時間や日にちをずらしたり、工夫をして入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、お昼寝や仮眠がいつでもとれるよう配慮している。夜間寝付けない方は、温牛乳の提供や会話をしていただいたり、時には添い寝も対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋の用紙がはさんでありいつでも確認できるようにしている。服薬の変更があれば必ず申し送りにて職員に伝達して周知徹底している。誤薬や飲み忘れの無いよう職員間での確認を怠らないよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れやお手伝い等利用者の状態に対応できる役割を提供している。毎月、外食の日を設け飲酒や好きなものを食べていただけの機会をつくっている。ドライブ、散歩、買物に出かける時間も大切に設けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出レクや喫茶店、スーパーでの買物、美術館や資料館にも頻繁にお連れしている。公共の施設やデパートへも外出の機会を設けている	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、鍼治療・お墓参り・美容院・自宅に帰ったり等、積極的に外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができない方が多いが、持っていないと不安がられる方がほとんどである。希望時には、本人管理での対応も行っている。また、外出時に買物される時にお財布を渡し支払いを本人に任せることも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、家族や友人、知人に電話で連絡していただいている。会話中は、プライバシー保護のため、席をはずすこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活時間の長い共用スペースでは、利用者や職員が毎月共同で作成した貼り絵、塗り絵を展示している。また、季節ごとに外出した先での写真の展示を行い四季を感じていただいている。	共有スペースにおいては、床暖房を入れ空調温度には常に気を使っている。また、利用者の貼り絵・習字・絵等の作品を飾り、居心地の良い空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かい日には、玄関先の縁台で日向ぼっこをされ利用者同士や職員との会話、一人で考える時間を提供している。各テーブル席の配置やソファの設置など居心地の良い空間が提供できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやテレビ、イス、テーブル等持込の制限無く使用していただいている。仏壇や寝具、鏡などを持ち込まれ自宅で過ごされているような空間となるよう考慮している。	ぬいぐるみや椅子等思い出の品々が持ち込まれそれぞれの利用者の心地よさを配慮している。また、写真や作品なども飾り工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無い安心して暮らせる環境の整備、工夫を常に念頭において対応している。今年度は、浴槽が深い為、中に台を設置し、危険や無理のない入浴の提供ができています。		